



平成 20 年 12 月 12 日

発行：栄研化学(株)広報部

各 位

今回のニュース

栄研化学、長期優先債務格付：「BBB」据置 格付けの見通し：「安定的」

株式会社日本格付研究所（JCR）は、12月11日、弊社の長期優先債務の格付けを見直し、「BBB」（トリプルBフラット）の据え置きとしました。

主な格付け事由は、下記のとおりです。

- (1) 臨床検査薬大手。国内では便潜血検査用試薬や尿検査用試験紙などで高いシェアを有する。国の医療費抑制策が続くなか、検査薬の価格は継続的に下落、病院の検査抑制もあいまって市場の伸びは緩やかである。08年に開始された特定健診の市場拡大効果も足元限定的となっている。
- (2) 当社では主力の免疫血清学的検査用試薬を中心に販売数量を拡大、増収基調を維持している。また海外では、大腸がん検診にて日本で主流の免疫法便潜血検査の浸透を図り、関連製品の販売を伸ばしている。
- (3) 一方、当社が成長を期待する独自の遺伝子増幅技術「LAMP法」製品の売上高は低位にとどまっており、事業の本格化には、途上国での需要が見込まれる結核菌検出システムの開発が重要となる。同システムの開発は当初計画より遅れ気味だが、09年の国内申請に向け着実に進展している。
- (4) 売価低下や仕入商品の売上増に伴い売上原価率が上昇する一方、販管費は抑制し、安定した収益力を維持している。09/3期は原材料価格の急騰を受けて当社想定以上に売上原価率が悪化、営業減益を余儀なくされる見通しだが、主力製品の堅調な販売が見込めること、生産体制の効率化等コスト抑制策が進みつつあることなどを勘案すれば、10/3期以降も現状程度の利益水準の確保は可能とみられる。なお、生産体制再編に伴い設備投資がやや増加する計画だが、キャッシュフローで対応可能な範囲にあり、堅固な財務基盤は維持されよう。
- (5) JCRは海外事業基盤の強化、結核菌検出システムの開発動向、コスト管理諸施策の進捗状況、大塚製薬などアライアンス先との協業効果に注目していく。

【ニュースレターに関するお問い合わせ先】

栄研化学株式会社 広報部 担当：渡辺裕之、戸田

TEL:03(5846)3379、FAX:03(5846)3474、e-mail:koho@eiken.co.jp

品質で信頼され、技術で発展する栄研

